

ハノイ医科大学とコロナ禍での PrEP、性感染症に関するワークショップを開催
(2021 年 12 月 21 日)

プロジェクトの重要なパートナーであるハノイ医科大学とは、若手を中心とした研究者との研究活動の紹介・共有を定期的実施しています ([第一回ワークショップについてはこちら](#)、そして[第二回ワークショップについてはこちら](#))。今回第 3 回目ワークショップは「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の性感染症および HIV の曝露前予防 (PreExposure Prophylaxis、通称「PrEP」) に対する影響」がテーマ。オンラインで開催しましたところ、遠隔での参加も含め、約 20 名の参加がありました。

まず日本側、NCGM (国立国際医療研究センター) 水島大輔医師から、「東京の男性同性愛者における COVID-19 の性行動への影響」について発表がありました。COVID-19 拡大の影響による一時的な PrEP 登録の中止を除いて、Sexual Health 外来 (SH 外来) の PrEP 登録者数は順調に伸びていることや、PrEP 開始 12 か月後までの PrEP 継続率は 90%以上を維持していること等が報告されました。特に、PrEP 未使用者において、COVID-19 前後での性感染症罹患率は大きな変化がなかったものの、PrEP 使用者の間では、COVID-19 拡大後に性感染症が増加傾向であるという分析結果が示されました。これは PrEP の認知度が高まり、PrEP により HIV 感染リスクが低下したことに対するリスク補償行動¹に起因すると考察されました。



ベトナム側はハノイ医科大学からワークショップへ参加・発表がなされました。



日本側は新会議システムの導入でベトナムからのご挨拶も大変聞きやすくなりました。

¹ リスクを低下させても、低下したリスクを埋め合わせるようにユーザーがリスクの高い行動をし、結果として元と同様のリスク水準になってしまうこと



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



これを受けてベトナム側、ハノイ医科大学 Nguyen Duc Khanh 医師から「Sexual Health Promotion (SHP) クリニックにおける COVID-19 の PrEP 継続へのインパクト」と題して、COVID-19 の各アウトブレイク前後の PrEP 継続率の比較や、新たに導入された Tele PrEP（郵送による検査と内服薬の提供）の実施状況等について発表がありました。特に最も長い期間社会規制が実施された第 5 波（2021 年 4 月～9 月）の前後では、PrEP 新規登録者および PrEP 継続率の減少がみられたそうです。Tele PrEP はこれらを補うための新たな戦略として期待されていますが、一方で、郵送での性感染症のスクリーニングや情報守秘に関する課題等も共有されました。

質疑応答では、ベトナム SHP クリニックでの PrEP 継続率が、日本の SH 外来に比べて低い理由として、ベトナムでは内服薬が無料で提供されているため日本の使用者に比べて PrEP への動機が弱いことや、PrEP を提供する施設が多数あり、オンラインでも PrEP 薬を購入できることから、PrEP 使用者は薬の入手場所や方法を自由に変更できること等が考えられました。SH 外来からの「PrEP 使用者で性感染罹患率が増加した」という報告から、Tele PrEP の拡大がすすむベトナムで、PrEP 使用者における定期的な性感染症スクリーニングの重要性が示唆されました。

ベトナムでも日本でも新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況です。HIV/AIDS の予防と治療に及ぼす影響も次第に大きくなってきています。厳しい状況下ではありますが、より良い HIV ケアを提供する一助となれるよう、今後も様々な取り組みを進めていきます。